第 9 講　地方からの視点と日本の産業・文化の確立

PART1 琉球王国と蝦夷ヶ島

Chapter 1　琉球王国の成立と発展

目標
琉球王国成立の経緯について知ろう。
琉球王国の繁栄が長く続かず衰退したのはなぜだろう？

1　統一以前の琉球

①グスク時代（11 世紀末～）

按司と呼ばれる地方豪族が**グスク〔城〕**を築き，互いに争いを繰り返すようになった。

②三山時代（14 世紀～）

按司たちは山北〔北山〕・中山・山南〔南山〕の三王国（＝**三山**）に統一され，
王はそれぞれ明の皇帝の冊封をうけた。
※朝鮮半島の高麗へも使者を派遣。

琉球の三山とおもなグスク跡

2　琉球王国の成立と発展

①〔[1]　　　　　　　　　〕**の成立（1429 年）**→第一尚王統

按司から**中山王**となった〔[2]　　　　　　　〕による三山の統一。

※〔[3]　　　　　〕**城**に琉球王府を設置し，日本・明の両国に朝貢。

奄美群島や宮古・八重山列島を征服し，南西諸島全体に大きく勢力を広げた。

※首里城正殿前には「万国津梁の鐘」が掛けられ，場外には守礼門が建てられる。

②第二尚氏王統の成立（1470 年）

尚円〔内間金丸〕が再統一。のち尚真が明に冊封され全盛期を迎える。

③〔[4]　　　　　　　　　〕の展開

国際貿易港の**那覇**を中心に，明・日本〔ヤマト〕・朝鮮と東南アジア諸国とを結ぶ。

※のち南蛮貿易の発展や後期倭寇の活動，明の財源不足や海禁政策緩和などにより衰退。

④歌謡集『おもろさうし』の編纂（16 世紀～）

中国から**三弦**が伝わり，琉球王国で**三線〔蛇皮線〕**が生まれ，伝統歌謡オモロが発達。

のち 16 世紀後半に三線が琉球王国から日本に伝わり，三味線となった。

琉球王国の交易

首里城正殿

まとめ

中山王の尚巴志が三山を統一し，琉球王国が成立した。

琉球王国の中継貿易は，南蛮貿易や後期倭寇の活動，明の海禁政策緩和などにより役割が小さくなったため，国家としても衰退していった。

Chapter２　中世の蝦夷ヶ島

目標
北海道の渡島半島で約 39 万枚の中国銭が見つかった意味は何だろう？
15 世紀，和人とアイヌの間で紛争が起こったのはなぜだろう？

1　アイヌ文化（13世紀頃〜）

古代の擦文文化・オホーツク文化の後を受け中世に展開されたのが**アイヌ文化**で，
狩猟・漁労・雑穀栽培，交易などを中心に生活を営んだ。
信仰や言葉はあっても文字を持たず，口承の**ユーカラ**が発達。
※アイヌ語は，アイヌ〔人間〕・カムイ〔神〕・
　コタン〔集落〕・チャシ〔砦〕などが有名。
　また，イオマンテ〔熊送り〕などの風習がある。

ユーカラ

2　蝦夷ヶ島への進出

①**和人**〔シャモ〕の進出（13 世紀～）

蝦夷ヶ島南西部の渡島半島に**道南十二館**を建設，

館主は津軽の豪族**安藤〔安東〕氏**の支配下に属する。

※北海の産物（鮭・昆布・毛皮など）を，

津軽半島の日本海側にあった〔1　　　　　　〕を通じ，

畿内へ盛んに輸送していた（＝日本海交易）。

※ 1968 年，志苔館跡の付近から 14 世紀末～ 15 世紀初めに埋められた

約 39 万枚の中国銭が出土している。

※安藤氏は，鎌倉時代前期に 2 代執権北条義時の御内人となり，蝦夷管領（代官）に

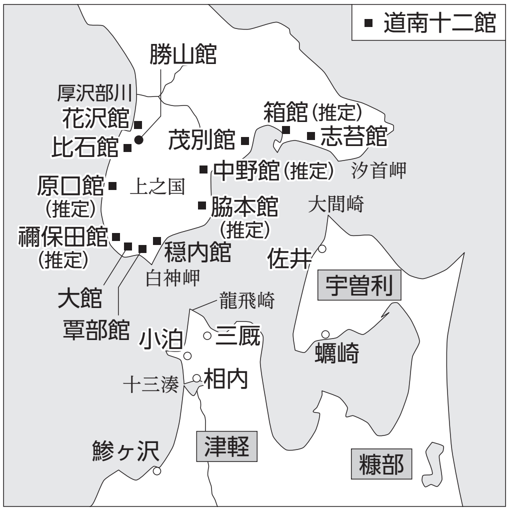
任じられていたが，1322 年に安藤氏の乱と呼ばれる内紛を起こしている。

②〔2　　　　　　　　　　　　〕**(1457 年)**

和人とアイヌの紛争。上之国の領主で花沢館を拠点とする**蠣崎氏**が討滅。

※蠣崎氏の客将武田信広が大首長コシャマインを射殺。

のち 16 世紀前半には蠣崎氏が安藤氏に代わり館主を統一し，松前を本拠とした。



道南十二館と周辺図

志苔館跡付近で発掘された出土銭

まとめ　渡島半島で大量の中国銭が発見されたことは，当地の経済的な発展と，
日本列島の銅銭がここまで流通していることを示している。
和人とアイヌの文化・風習の違いと，交易の主導権争いが紛争を生んだ。

第 9 講　PART 1　確認問題

1 11 世紀末以降，グスクを築いた地方豪族はどれか。

① 嫡子　② 宮座
③ 按司　④ 天孫

2 1429 年，琉球王国を成立させたのはだれか。

① 李成桂　② 李舜臣
③ 尚円　④ 尚巴志

3 琉球王国の国際的な貿易港はどこか。

① 那覇　② 首里
③ 豊見城　④ 名護

4 16 世紀以降，中国からもととなる楽器が伝えられ，琉球王国で生まれた楽器はどれか。

① 尺八　② 三弦
③ 三線　④ 琵琶

5 北海道で中世に展開された文化はどれか。

① 続縄文文化　② アイヌ文化
③ オホーツク文化　④ 擦文文化

6 和人が建設した道南十二館の館主を支配下に置いた豪族はどれか。

① 藤原氏　② 蘆名氏
③ 安藤氏　④ 蠣崎氏

7 北海の産物は，どこを通じて畿内へ盛んに輸送されたか。

① 十三湊　② 大湊
③ 秋田　④ 松前

8 1457 年に起こった和人とアイヌの紛争で，
蜂起した人物と紛争をしずめた人物の組み合わせとして正しいのはどれか。

① シャクシャイン：安藤氏　② シャクシャイン：蠣崎氏
③ コシャマイン：安藤氏　④ コシャマイン：蠣崎氏

第９講　PART１　確認問題 解答

1 解答：③　按司と呼ばれる地方豪族が**グスク〔城〕**を築き，互いに争いを繰り返すようになった時代をグスク時代という。

2 解答：④　按司から中山王となった**尚巴志**は，三山を統一し，琉球王国を成立させた。③の尚円は，1470 年に第二尚氏王統を成立させた。

3 解答：①　国際貿易港の那覇を中心に，明・日本〔ヤマト〕・朝鮮と東南アジア諸国とを結ぶ**中継貿易**が行われた。

4 解答：③　中国から伝わった②三弦をもとに琉球王国では三線〔蛇皮線〕が生まれ，伝統歌謡オモロが発達した。

5 解答：②　③のオホーツク文化と④の擦文文化は古代に展開された文化。

6 解答：③　**道南十二館**の館主は，津軽の豪族である安藤〔安東〕氏の支配下に属した。

7 解答：①　**十三湊**は津軽半島の日本海側にあった。

8 解答：④　1457 年に起こった和人とアイヌの紛争を**コシャマインの戦い**といい，上之国の領主で花沢館を拠点とする**蠣崎氏**が討滅した。